

1. 活動の背景

1 - 1 . 街並み環境整備事業

城下町鹿野では、祭が似合う街並み、歴史が薫る街並みをめざして、平成8年度から公的空間である道路、水路、石灯籠などが整備されてきました。また住民側では「まちづくり協定」を各集落ごとに締結し、建物の新築・増改築でのガイドラインを策定し懐旧風情ある街並みを自ら作りあげています。

1 - 2 . 問題の発生

上記事業が執行されている現在、少子高齢化により独居老人、転出が目立ち始め、それに伴って空家、空地が点在するようになりました。

1 - 3 . いんしゅう鹿野まちづくり協議会の発足

町のコミュニティー活性化のために兼ねてからイベントなど活動してきた有志が集まり、問題解消のため、平成12年に長期グランドデザイン「いんしゅう鹿野童里夢（ドリーム）計画」を策定しそれを骨子として本協議会を立ち上げました。

いんしゅう鹿野童里夢（ドリーム）計画

<骨子>

居住区と観光地を融合させることにより、町内にいつも観光客が訪れる町。先祖から引き継がれてきた伝統工芸の技の伝承が行われる町。盆踊り、鹿野祭りの似合う町。お年よりから若者まで世代を超えた交流が多い町。地産地消の行われる町。

<具体的活動内容>

鹿野城跡公園（城山）を中心とした城下町における観光客の散策動線を予測策定し、動線周辺で空家となっている伝統的建物を整備し、そこで伝統工芸品の伝承活動・体験コーナー開設、農産物加工品（特産品）の開発・販売などを行い、観光客の周遊を促す。そのことによって地域の活性化が図られ、上記～までの骨子を完遂していく。

1 - 4 . 現在までの活動状況

空家を再生活用しながら長期グランドデザインを達成させていく上で、平成14年4月に活動拠点「鹿野ゆめ本陣」という第1号館を立ち上げ、そこを中心としながら、地域コミュニティーの振興、伝統工芸品の技の伝承・体験、農産加工品の開発を行ってきました。今後平成15年度には2号店を立ち上げ予定。

2. 活動の経緯と目的

2 - 1 . 活動の経緯

現在わかっていることで、街並み環境整備事業は平成17年で終了されることや、同年には市町村合併が行われることなどの激しい環境の変化が見込まれています。また、今まで暗中模索で進めてきたまちづくり活動も緩やかに実施してきましたが、今後どうやって目に見えて結果をだすのか、快適で元気のある町にするのかという課題に遭遇しています。

2 - 2 . 活動の目的

ソフト面である住民の生活環境、ハード面である街並みの家屋の調査を行うとともに、今後のまちづくり展開方策を検討していくことを目的としました。

3. 活動の内容

3 - 1 まちづくり研究会

～鹿野地区のまちづくり拠点と今後のまちづくりを考えるためのワークショップ～

～成果を発表するシンポジウムの開催とその記録～

(詳細別紙：まちづくり研究会STEP1～3による)

まちづくり活動の今後の展開方策を導きだすため、鹿野より先駆的にまちづくりを実践してきた当事者に失敗談や成功事例を聞くとともに、実際の鹿野町をあるいて頂き、ワークショップ、シンポジウム形式で研究会を実施しました。

(1) アドバイザー

市村良三氏	長野県小布施町	(株)アラ小布施	社長
岩本 隆氏	岐阜県清見村	(財)パスカル清見	総支配人
岡村竹史氏	東京都	鳥取県地域振興アドバイザー	
山口真佐美氏	愛媛県	鳥取県地域振興アドバイザー	

(2) STEP1 (平成15年1月25日～26日)

(町内視察)

まず、鹿野町内の古いまちなみ及び周辺の観光資源をアドバイザー、協議会会員で視察し、取り巻く環境に関する共通認識を行いました。

(3) S T E P 2 ・ 3 (平成 1 5 年 2 月 1 日、 1 5 日)

ステップ 1 をもとに、今後の本協議会の具体的実践方法について検討し、平成 1 5 年度事業計画、組織形態の在り方、1 号店運営方法の在り方、2 号店の立ち上げについて整理しました。詳細については別紙 (まちづくり研究会 S T E P 1 ~ 3) による。

3 - 2 . 町並み鹿野らしさ調査 (平成 1 5 年 2 月 2 7 日 ~ 3 月 1 3 日)

~ 鹿野地区に残る歴史的建造物の現状調査およびデータベース化 ~

(詳細別紙 : 町並み鹿野らしさ調査による)

鹿野町のまちづくりに欠かせないのが「城下の古いまちなみ」であり、散策する人は口々に心地よい町と言われています。ところが、建物だけ着目すると全国的に優れたものはあまりないのが現状です。では、私たちは何を羅針盤に今後の街並み環境整備に取り組んでいくのか曖昧な部分を整理するためこの調査を行いました。

(1) 調査協力 設計士 中尾純一 鳥取市
大工 小旗義雄 町内の大工で屋号は「山城屋」

(2) 調査方法

鹿野町の歴史・文化・風土を基本調査、住民への聞き取り調査を行い、歴史的建造物の共通的特長、人々の生活の移り変わりを設計士・大工の視点で検討する。

(3) 鹿野らしさ及び特徴

(歴史的建造物の建設年度)

現在残っている鹿野地区の歴史的な建物は江戸末期から明治初頭のもものがほとんどで、それより古い建物はない。理由としては度重なる火災、雪害、地震によって古い建物は壊滅状態になったと思われる。

(歴史的建造物の構造)

城下町区域の調査対象となった建物の架構はどれも同一で、鳥取県東部域の民家の構造と異なっていたことが判りました。その理由として、山城屋という屋号を持つ小旗氏によれば、現存する古い建物をほとんど手がけた山城屋の先祖は、応仁の乱以降京都の山城地方からこの鹿野に移ってきた宮大工であるとい

うことでした。また、対象の建物はどれも商家造りであり、この理由は当時から鹿野の城下町地区は人の往来が多かったことから商業活動が盛んであったことも伺えます。

(鹿野らしい街並み)

江戸末期～明治初頭の建物は、道幅と建物の軒高、深い軒出、低く控えた中二階により「天空が広く開け」歩いていて心地よいスペースとなっていることが伺えました。昭和初期ころまでに立てられた建物は、同じような造りであったため、心地よい空間が今でも残っています。ところが近年になって高い軒高、浅い軒出などの建物が少しずつ増え、立派な木造二階建てであっても通りを歩いていて不思議な圧迫感を感じる場合があります。今後はこのような「開けた天空」を意識した「天空率」がキーワードになると考えられます。

3 - 3 . まちなみ・まちづくり調査 (平成15年2月9日～3月15日)

～鹿野地区に残る歴史的建造物を含めた全家屋の所有者へのヒアリング～

(詳細別紙：街なみ環境整備事業地区における街なみ建築等の変容と住民の意識調査による)

鹿野町では平成8年度より街なみ環境整備事業が行われてきました。公的空間では道路、水路、石橋、石灯籠など整備され、私的空間では、建物の新築・増改築に伴い、「まちづくり協定」にもとづいて格子や白漆喰などの風情ある建物も見え始めました。その反面空家・空地も増えつづけていることも事実です。そこで、各家の建物の状況、生活環境への意識など調査するためアンケート聞き取り調査を実施しました。本報告書の整理としてはその所見にあたる事項を記載しました。

(1) 調査協力 鳥取環境大学環境デザイン学教室

(2) 調査方法 アンケート、聞き取り、集計、分析

城下町地区の全世帯343世帯に対して331世帯配布。内290世帯回収し、有効だったものは250世帯。したがって実質76.5%の回答となりました。

(3) 地域の意識動向

(街並み環境整備事業に関する意識)

街並み環境整備事業が行われていることについて「まちをきれいにしたい気持ち
が前より強くなった(61%)」、「将来の鹿野に有効(54%)」の回答から将来的
への希望・夢が芽生え始めたことを裏付ける結果となりました。

(建物に関する意識)

建物に関しては「木造二階建(85%)」、「持ち家(97%)」、「建物に満足して
いる(68%)」の回答から実質的に安定した建物がほとんど伺えます。建築時
期は「江戸初期・明治・大正・昭和18年鳥取大震災以前(18%)」、「昭和18
年鳥取大震災以降(54%)」、「平成に入ってから(28%)」。の回答から、「鹿
野町は古い街並み」といわれながらも全体的には極端に古い街並みとはいえない
ことが判りました。

(居住者・使用用途に関する意識)

「ここで生まれた方(63%)」、「ここに住みたい(94%)」の回答から、
ふるさと鹿野への定住意識は強く、使用用途としては「居住専用(87%)」、「店
舗併用住宅・事業専用(13%)」で住宅専用の静かな街並みであることが伺えま
す。

(空地空家に関する意識)

「空地は無いほうがいい(71%)」、「空家は無いほうがいい(85%)」、「空家は
何かに活用したほうがいい(85%)」としながらも、「自所有の空家、空き部屋は
どのような場合でも貸さない(77%)」という相反する結果もでました。ここで何
もしなければ結果的に建物・土地はいわゆる「塩漬け状態」となる可能性が高いこ
とも伺え、今後のまちづくり活動に大変参考になるデータとなりました。

(まちづくり拠点「鹿野ゆめ本陣」に関する意識)

「地域のスポットの一つになった(54%)」と、何とか地域住民に受け入れられて
いるようですが、「鹿野町全体に回遊性がうまれた(16%)」など、直接目に見え
る形で効果が現れていないことが伺え、今後の活動の課題となりました。

(今後の鹿野町について)

「まちなみは美しくなる(67%)」、「鹿野祭などの伝統文化は伝承される(72%)」、「鹿野菅笠などの伝統工芸品は伝承される(31%)」、「観光客は増加する(25%)」、「商売は繁盛する(7%)」、「農業は振興される(7%)」の回答から、現状の街並みや、伝統文化は伝承されるという期待感はあるものの、地域経済の根幹である伝統工芸品や商業、農業、観光産業には期待していないような結果となりました。

4. 活動の成果

4 - 1 . まちづくり研究会

まちづくり研究会を実施したことにより、模索していた「まちづくり拠点の整備方針」が具体的に固まり、平成15年度以降の事業計画へ反映することができました。また、住んでいても気づけなかった鹿野町の良さを再認識でき、現在の歴史的環境、自然環境、生活環境を「守る」ということが今後のまちづくりを検討する上での基本事項として全体認識できました。

4 - 2 . 町並み鹿野らしさ調査

町並み鹿野らしさ調査を実施したことにより、なぜ鹿野のまちなみは心地よいかという原因の一つとして「開けた天空」ということがわかり、今後の建築物に対して提案できるきっかけとなりました。また、古い建物の詳細を調査したことにより、データとして保存することができました。

4 - 3 . 街並み環境整備事業地区における街並み建築等の変容と住民の意識調査

アンケート調査を実施したことにより、今日まで憶測部分で判断していた住民意識・建物の変容が明確になりデータベース化することができました。また、住民意識で特徴的なことは、目に見える公共整備やイベントなどは住民の期待感が伺えるものの、地域経済の基本である商業や農業、更には観光などといった方面(いんしゅう鹿野童里夢「ドリーム」計画で策定したランドデザインと同一方面)には期待が薄いことも伺えました。経済が衰退すると必然的に町は消滅していくことから、非常な危機感を感じると共に、今後の当協議会活動の重要性を認識しました。

5. 今後の展開

5 - 1 . 行政とのパートナーシップ

まちづくりにおける行政の政策と民間活動において、現在まで車の両輪の関係で行ってききましたが、この活動で得た結果についてもお互いに共有し、今後のまちづくりに反映する予定です。

5 - 2 . 住民意識の高揚

この調査に際し、住民からの受け入れは非常によく、色々な場面で会話が弾みました。現段階で一般住民の方々には具体的内容を説明しきれいていませんが、「このまちを良くしよう」という共通的な認識は確認し合えました。何かの形で報告をしていく予定です。

5 - 3 . N P O 活動

私たちの地域は今後市町村合併という大きな岐路に立たされています。そのため、自らの地域は自らの手で活性化することを目的に、N P O 法人を設立したばかりです。この活動を通して、地域の課題、地域の良さが認識でき、今後の方向性もほぼ確立できたことから、調査結果をこれからのN P O 活動の基礎として活用していく予定です。

6. 活動のポイント

6 - 1 . 活動の人材

ボランティア活動を行っている方、町内自治活動にて精力的に活躍していた方、町の名士といわれている方、趣味がきっかけで夢中に活動している方、地域に貢献している会社の社長などに「この町の地域振興プラン」と「私たちの想い」を提示しながら一人一人声かけを行い、ヘッドハンティングのような形式で集めました。その方々が参加したことによって、各分野でご活躍されている人材のため、多少無理の効いた活動も住民を巻き込みながら実施可能としてきました。

6 - 2 . 活動資金の調達

現在、鳥取県平成13年度中山間地域活性化交付金事業(3ヵ年)でハード面・ソフト面の事業を進めています。また、それ以外の活動については「まちづくり応援団」という協賛金を広く一般から募り運営しています。

6 - 3 . 活動のネットワーク・支援

継続して交流しているネットワークは特になし。支援についても特に無し。

6 - 4 . その他

このような業務委託を受けたことは初めてで、多少の迷いはあったものの非常に有効的な業務と思います。今まで隠れていた潜在的なものを浮上させることができました。今後とも広く全国的に展開し、私たちの仲間の発展に寄与していただけたらと思いますことと、御社様の益々のご発展をお祈りしつつ、感謝の言葉とさせていただきます。